

## 令和5年定例会議会一般質問

梅原 和喜

登壇日時 2023年6月27日(火) 11時10分～12時10分

番号	件名	要 旨
1	環境行政について	・脱炭素社会構築へ向けての取組状況 ・民間企業との連携
2	観光行政について	・クルーズ客船のおもてなし ・郷土芸能への支援の考え方 ・長崎ペーロン選手権大会の在り方
3	防災行政について	・地震発生時の対応 ・避難所の環境改善
4	教育行政について	・長崎県校長会研究大会の実施状況 ・教職員の超過勤務の状況
5	道路行政について	・主要地方道長崎南環状線の進捗状況 ・市道土井首町磯道町線の進捗状況
—	—	—
—	—	—

## 1. 環境行政について

### (1) 脱炭素社会構築へ向けての取組状況(環境部)

「質問」

長崎市では環境部に「ゼロカーボンシティ推進室」を設置し脱炭素社会構築へ向けての諸取り組みを推進しているが、取組状況と今後の方針は。

「回答」

本市は「ながさきエコライフ・フェスタ」、「ながさきエコライフ・ウィーク」、「ながさきエコネット」の3つの取組を進めている。

令和3年3月17日に「ゼロカーボンシティ長崎」を宣言。

令和4年3月に「長崎市地球温暖化対策実行計画」を改訂し、2030年度にCO2を2007年度比43%削減する中期目標を達成する取組を加速していく。

### (2) 民間企業との連携

「質問」

本市南部にある大手重工の研究所ではカーボンニュートラルの次世代の研究が進んでいる。民間企業との連携を地域経済への活性化に繋げる事も重要だ。本市の考え方は。

「回答」

海洋・モノづくり産業分野においては、製造業で培われた経営資源や高い技術力、海に囲まれた長崎市の立地特性を活かして、環境・エネルギー分野への参入等を推進していく。地場企業との連携・企業交流会等で新規事業開拓を促していくとともに、行政の若手職員とエンジニアとの相互交流も実施していく。

2, 観光行政について

(1) クルーズ客船のおもてなし

「質問」

クルーズ客船の入港が 3 月より再開した。長崎らしい「おもてなし」で誘致を推進する考えは。

「回答」

長崎港クルーズ客船受入委員会が中心となり「龍踊り」、「太鼓演奏」など長崎らしいアトラクションで歓迎している。

長崎は船会社、旅行会社から市街地や観光地への距離が近く、寄港地として高い評価を頂いている。

今後も船会社との信頼関係も重要視してオール長崎で誘致受け入れに取り組んで行く。

## (2) 郷土芸能への支援の考え方

### 「質問」

市内各地で受け継がれている郷土芸能は後継者不足や資金難で存続が困難な地域がある。支援の考え方は。

### 「回答」

本市には 50 の団体が「長崎郷土芸能保存協議会」に加盟されていますが、後継者不足で活動の休止を余儀なくされている。

令和 4 年度に後継者育成活動に対する補助制度を新設し 43 団体に支援拡大した。道具や衣装など活動に必要な用具類の整備に対して支援する民間団体等の助成事業も有るので対象団体に情報提供を行うと共に、申請手続きに対する支援等を行っていく。

## (3) 長崎ペーロン選手権大会の在り方

### 「質問」

今年は 4 年ぶりに松ヶ枝埠頭で開催されるが、PR 不足で市民への周知が図られていない。

### 「回答」

今年は一般対抗、職域、中学校のレースは 7 月 30 日(日)1 日のみの開催となった。今後も港湾管理者である長崎県からはペーロン選手権大会

会場として日程を事前に確保頂いているので松ヶ枝埠頭で開催される予定である。

### 3. 防災行政について

#### (1) 地震発生時の対応

「質問」

近年、全国各地で強い地震が発生しているが過去に本市で発生した地震はどれくらいあるのか。又、緊急時の連絡体制はどうなっているのか。

「回答」

1919年から2021年までに震度1以上の地震が724回、その内、震度4以上の地震については震度4が2回、震度5が1回、いずれも1992年に発生している。地震発生時の防災体制は震度に応じて体制を強化している。震度6弱以上の場合は災害対策本部を設置する。

関係省庁との緊急連絡体制はエムネットと呼ばれる緊急ネットワークシステムにより内閣官房から直接伝達されることになっている。

#### (2) 避難所の環境改善

「質問」

指定避難所は、ふれあいセンターや公民館など空調が整備された避難所だけでなく、体育館など空調が無い施設もあるが、梅雨や台風時期の暑さ

対策はどのように考えているか。

「回答」

体育館に避難する場合は、学校に備えている大型扇風機を使用させていた  
ただいている。状況に応じて別途、市が備蓄しているスポットクーラーを配  
置する等、環境改善を図っている。

#### 4. 教育行政について

##### (1)長崎県校長会研究大会の実施状況

「質問」

本年5月10日、11日に諫早市で本大会が開催された。本研究大会の成  
果を今後の教育関係にどうつなげていくのか。

「回答」

長崎県校長会は県下の公立小・中学校の校長をもって組織され、結成以  
来、学校教育の充実・発展の為に研究と実践を重ねている。

子ども達が変化の激しい社会を生き抜くために、探究的な学習や体験活  
動を通じ、多様な他者と意見交換しながら進める「協働的な学び」を一体  
的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していく。

##### (2)教職員の超過勤務の状況

「質問」

令和4年度の市内小中学校の教職員の超過勤務は。

「答弁」

1か月45時間超えは小学校1,900名、中学校2,079名(延べ人数)。

令和元年度に比べると小学校825名、中学校829名減少している。

教職員の業務改善に対する意識の高まりなどで確実に教職員の超過勤務時間縮減に繋がっている。

## 5. 道路行政について

### (1) 主要地方道長崎南環状線の進捗状況

「質問」

長崎南環状線(新戸町～江川町)はトンネル工事の安全祈願祭が5月30日に実施された。道路整備状況は。

「答弁」

同路線は(5.2Km)平成28年度に事業化され、平成30年度から工事が継続されている。令和5年度はトンネル工事を含め、大山町で橋梁の上部工事が進められる予定で、令和12年度完成目標としている。

トンネル工事が出された残土は南部の為石浄水場へ埋め立てられ、企業誘致の土地として有効活用していく。

### (2) 市道土井首町磯道町線の進捗状況

「質問」

全路線 750mの内、500mが完成しているが、今後の計画は。

「答弁」

本道路は土井首毛井首団地下の海岸付近から磯道町に至る約 760m、幅員 8.5mの計画で長崎県が実施している海岸保全事業と併行して平成 19 年度から道路新設を進めている。現在 500mが完成している。

これまで、用地取得に難航していたが、令和 4 年度から用地取得を再開した。

未整備区間は長崎県や関係機関と連携を図りながら道路整備の早期完成を目指していく。